



サグラダ ファミリア Sagrada Familia (抜粋版)

カトリック水戸教会会報 2020年12月号

待降節とクリスマス

水戸主任司祭 ウィリアム・ドネガン神父

待降節とクリスマスは、希望と喜びの季節です。私たちが、ワクワクしながら幼子イエスが、私たちの教会に、家庭に、そして、実に、私たちの心の中に訪れくださるのを待つ季節です。このうれしい季節にあって、私たちは、救い主と救い主によってもたらされる平和を歓迎するために、神様によって選ばれたことを、家族と友人とともに喜んでいきます。

でも、お待ちください！

私たちは、コロナの蔓延の真ただ中にあります。この中で、人々は、不安に思い、自分自身を心細く思い、心の中でおびえています。多くの人々がウイルスに感染し、その数が増え続けているのを、毎日、テレビの前で私たちは目の当たりにしています。マスク着用のルールをまもり、ソーシャルディスタンスを保ち、消毒につとめておりますが、それでも、私たちは恐れの中にあるのです。恐れるということは自然であり、良いことです。なぜなら、それによって、私たちは、懸命に努力するようになるからです。不安に囲まれて、どのようにして、私たちは、幸せになれるのでしょうか？

クリスマスを準備するこの時期に、私たちは、自分自身だけでなく、自分の周りにいる人々にも目を向けなければなりません。自分の隣人の中に、友達がなく孤独な人はいないでしょうか？もしかすると、電話をしたり、訪問したりしてあいさつし、その人の友になるべきでは？時間を作って、微笑みを携えてあいさつに行くことが、そのような人々にとって、一番良い薬となるのです。孤独に生きる人々は、寂しさを感じ、忘れられたと感じ、自分の無力を感じています。誰かとコミュニケーションをとることが、本当に求められているのです。自分たちの隣人にまなざしを向け、すすんで喜びを広げましょう。

私たちは、人に喜びを与えることに、喜びを見出します。喜び、愛、そして、幸せは、神様からの贈り物であり、それらの賜物は、分かちあうことによって、ますます増えていくのです。これが、クリスマスの意味です。

皆さんのクリスマス、そして、お正月が恵みあふれたものでありますように。



三位一体の聖体宣教女会からのクリスマスのメッセージ

2020年12月待降節。振り返ってみると、四旬節の始めからコロナ禍により、祝祭のため教会に集まることが制限され、当時は復活祭にはコロナも収まるだろうと期待し、その後は聖霊降臨祭には、被昇天祭には、と教会に集う希望を持ってきました。教会は、人々が各々家を出て集まってくる所なのに、ミサ参加の人数が制限され全く逆の分断された状態が続き、先の見通しもつかない現状です。しかし待降節を迎えている私たちは、待降節のいくつかの意味の中で「待つ」ことに大きな意味をみていると思います。「待つ」ことは何か善いことを信じていること、「待つ」ことには希望が含まれていると思います。今年はいままで経験したクリスマスとは違うクリスマスです。大きなお祝いであることは変わりませんが、今までとは違う祝いかたをするようになるでしょう。分かたれているつらさ、悲しみを受けとめつつ、おうちで、家庭で、親しい人たちとともに家族のメンバーの一人の誕生日を祝うように、御父の眼差しのもとで温かい親密な思いやりの雰囲気から今から準備したいものです。一緒に当日の聖書箇所を読んで分かち合う、9日間の祈りをする、など家庭でできることはあると思います。

そして心から「ご降誕おめでとうございます！」と言えますように。

今田 恵子

主のご降誕おめでとうございます。

「闇に住む民は光を見た」。毎年、降誕節中に繰り返し歌われる典礼聖歌集 305 番。今年は、みんなで声を合わせて、この聖歌を聖堂に響かせることはできませんが、「アーメン、そうでありますように」という祈りとなって、心の中に響いているのを感じています。

主が世の光であると知らされ、信じた私たちは、ご降誕の光に照らされながら、互いに励ましあい、支え合って、この困難なときを過ごしてゆくことができますように。

クリスマスの豊かな祝福とお恵みをお祈りしています。

熱田 きよみ

20 数年前、聖母幼稚園でお世話身になりました。久しぶりの水戸教会“私を知っていらっしゃる方がおられるでしょうか”

クリスマスは、皆様にお目にかかれると楽しみにしていましたが、コロナで難しいですね。

当日、どこにいても皆様と一致し、心を合わせて「イエズスさま、おめでとうございます。」と心からの花束をお捧げしたいと思います。

内藤 初子

“御言葉は人となり私たちのうちに住まわれた “

主の御降誕を通して、コロナ禍に苦しむ世界に真の平和が訪れますよう、心よりお祈りいたします。

イエズスは“希望”“平和”“喜び”“そして”愛”を私たちに味合わせて下さいます。このクリスマスに与えられる「神の祝福」が、全世界の人々に行き渡りますように！！

大山 麗子

新型コロナウイルス感染予防対策

マリオ山野内倫昭司教様から、何度か主日のミサに関してと、感染予防のためのお知らせが参りました。また 11 月 1 日には、日本カトリック司教協議会が「日本のカトリック教会における感染症対応のガイドライン」を作成し公表しました。そこには、感染症流行の状況を段階に分けての考察、教会内での諸活動

についての指針が示されています。水戸教会においても、コロナ禍の状態に慣れてきて感染予防対策のルールが守られていなかったり、安心してすぎている状況があります。どうぞ「いのちを守る」観点から、気を緩めないでなお一層の感染予防対策をお願い申し上げます。

- ① 主日のミサは、割り当てられた地区の方々が与ることができます。
- ② 聖堂の出入り口付近で、密になり話をしないでください。出入口をスムーズに通過してください。
- ③ 教会での集まりは、短時間で距離を置いてお願いします。
- ④ 体調のすぐれない方は、主日のミサに与ることが免除されておりますので、自粛を勧めます。

ミサへの地区割り当て（2 か月ごとに組み合わせを変える予定です）

2021年1月から下記のように変更します。

1月3日：東北 10日：南西 17日：東北 24日：南西
31日：東北

福音宣教の意向：**祈りの生活**

イエス・キリストとのパーソナルなかかわりが、神のみことばと祈りの生活によって養われますように。

日本の教会の意向：**教皇訪日一周年にあたって**

わたしたちが傷つけてしまった地球と、この世界で見捨てられ、忘れ去られた人々の叫びに気づき、神の愛の道具として、すべてのいのちを守るための役割を果たすことができますように。

旧約聖書「知恵の書」を読みませんか

聖書を読む機会はあまりありません。さらに旧約聖書となれば、「家に置いてあるだけ」となっているのではないのでしょうか。それをがんばって読んでみませんか。

まずは、旧約聖書の中では、キリストの誕生に最も近い年代に作成されたもの（紀元前88年～33年）で、新約聖書と最も密接な関係がある、「知恵の書」をみんなで読んでみましょう。

「知恵の書」の著者は不明ですが、旧約聖書について精通している人物と思われる。（旧約聖書の内容を多く引用している）。

聖パウロは「人間の究極の目的、すなわち神との一致する幸福へ導くことを

意図したものであり、知恵こそこれを果たすもの」とし、聖アウグスチヌスは「キリスト教的知恵の書」としています。

「知恵の書」は旧約聖書の中で比較的短い（19章）書で、皆様で読み合うのに適していると思われま

す。特に、現代社会の問題と、2000年前の社会と比較する参考になると思われま

す。みんなで読んでみませんか？
この件につきましては、ドネガン神父様、シスター大山の賛同を得ておりま

す。
開催日 2021年1月8日（金）午前10時のミサ後から
（ミサがない場合は、10時から）

なお、1ヶ月に1回ペースで開催します。（月の初めの金曜日を予定）
また、コロナ関係で延期になるかもしれません。